

## 第2章 就職先について考える

### §1 就職先の検討と選択

#### 1 就職先選択条件

就職は一生を左右する重要な選択である。学校では職業安定所と密接な連絡を取り、法の定めるところに従って生徒への職業の紹介につとめている。進路指導室の資料等を利用し、先生方と相談し、次の点を考慮して後悔しないような志望先を選択して欲しい。

##### (1) 職種

どんな仕事内容であるかということ。仕事を決める上で一番大事なものだろう。働く場所は屋内か屋外か？人、コンピュータ、機械、何を相手にするか？座って働くか、体を動かして働くか？など真剣に考えよう。自分の将来設計や適性に合っているかを考えよう。ある程度はやる気でカバーできるが、面接等の選考の際のポイントとなる。

##### (2) 業種

何で利益を上げている企業なのかということ。同じ職種、たとえば事務の仕事でもホテルの事務もあれば、建設会社の事務もあり、微妙にその内容が異なる。必然的に一緒に働く同僚も変わってくる。

##### (3) 地域

どこで働くか。何ヶ所も勤務場所があり希望通りにならない場合もありうる。親元から通うのか離れるのかよく家族と話し合っておくことが必要である。一人暮らししたい場合でも、自分の給料だけでアパートを借りて生活していけるかよく考えよう。

##### (4) 労働条件

給料や休日、勤務時間のこと。意外に辞める原因になっているのが休日である。友達と休みが違うとイヤだという人も多いはず。また、交代制があるかどうかも重要である。給料に関しては、日給月給か月給かなどもよく調べよう。

##### (5) その他

将来性、安定性、社風など。企業の安定性は資本金が多いほど高いと思われがちである。しかし、資本金が少なくとも、また、知名度があまりなくとも中堅企業と言われる会社の中にも安定して将来有望である場合がある。活気があって、自分を生かせる企業なのか「外見」にとらわれない選択も必要である。

以上のことを、家族を含めて良く考えてみる。すべての条件を満たしている企業は少ないだろうし、希望する生徒も多いかもしれない。そのため、条件の優先順位をしっかりと決め、ここまで譲れるがここからは譲れないというところを決めておく。実際に求人票が届き、いくつかの企業に絞られたら良く見比べ、パンフレットや市町村別の会社案内やインターネットなどで情報を集める。求人票では男女の区別ができないが、実際にはどちらかしか採用しないという企業もある。また、これまで本校から採用しているかも重要なポイントになる。こういうことに関しては、本書で調べたり、担任の先生や進路指導課の先生から聞いたりしておく。身近な人からの情報も意外と無視できない。

実際に働いている人や、同じ業種に勤めている人から話を聞ければ良いだろう。こうして自分の受験したい企業3社くらいを早めに決めておこう。

#### 2 就職先選択の時期

求人票が学校に届けられるのが7月1日からであり、7月中旬には具体的な企業名を提出しなければならない。この希望調査は正式なものではないが、生徒間または担任間で調整する資料となるものである。ということは、求人票を見て希望先を決める時間は実質的に約1週間しかない。前年度の求人票や企業ガイド(地域ごとに作られている)を見て、6月中には候補となる企業を挙げられるようにしておかなければ対応はできない。こうしていつかに絞った企業から実際に求人票が届けられたら進路指導室でコピーしてもらい、家族と相談し正式にその企業に希望するかどうか決定する。こんな風にスムーズに進めるためには、6月までには希望地域、業種、職種等を決定して欲しい。

##### 理想のスケジュール

4・5・6月	前年度の求人票、企業案内パンフレット等で企業研究 希望条件の優先順位決定(職種・業種・地域・その他)
7月上旬	求人票を見て、希望企業仮決定
三者面談	希望企業検討
7月下旬	職場見学、希望先の修正
8月中旬	推薦会議にて受験先正式決定

#### 3 就職試験を乗り切るために

- 履歴書の写真で合否が決まることもある。茶髪、化粧はそれだけで不合格。
- 基礎学力は必要。教養のあるなしは、にじみ出るもの。日頃の学習を大事にして欲しい。
- 企業は欠席、遅刻を嫌う。欠席が3年間を通して10日を越えないように注意しよう。
- 志望の動機を書けない者が毎年何人もいる。しっかりまとめておこう。
- 部活動や、生徒会活動のがんばりなど、おおいにアピールしよう。
- 作文練習も、面接練習も自分から積極的に。先生方に頼んでみよう。
- 進路指導室に足を運ぼう。情報を早くキャッチしよう。